

---

# エイズ

柊鏡

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

エイズ

### 【Nコード】

N6493F

### 【作者名】

柊鏡

### 【あらすじ】

私は親友からエイズであることの告白をつけた。

エイズ

親友が沈鬱な表情で切り出した。

かましいBGMが彩るカフェが無音に感じてしまつほど、彼女の言葉は重かった。

「エイズなんだ……」

私は驚きながらも、なんとか平常心平常心と唱えながら問いただす。

きちんと避妊したのか。

「そもそも——」彼女は自分が処女である、と言った。

そういえば、と思い出す。

彼女はこの前、自動車事故を起こした。

輸血したのではないか？ 訊ねた。

彼女は首を横に振った。

「なら……どうして」

「とても言いにくいんだけど」

ものすごく困った顔をしながら、彼女はジュースを啜った。

「親友でしょう？」

ちゃんと言ってくれないと困る。

エイズであることも告白してくれたのだ。きっと言ってくれるだろうと思った。

けれど、彼女は中々応えてくれない。もどかしかった。

「……」

「その……」

「言ってくれないと——」

エイズになった原因が解るかもしれないのだ。

「この前、泊まりに行ったよね」

「うん」

彼女は三日ほどまえに、私の家に泊まりに来た。

「なんで、勝手に帰ったの？」

しかも、さようならも言わずに帰ったのだ。

「あのあと、首をムカデが何かに刺されてこまったんだから」

私は自分の首筋を彼女に見せた。

血の出た後の瘡蓋が二つ並んでいる。かさぶた

「それ、私がやったんだ……」

「え？ どーゆーこと？」

「私が噛んだ」

彼女が口をあけた。白い歯が並んでいる。異様に大きな犬歯。 「

私——吸血鬼なんだ」

頭の中が真っ白になった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6493f/>

---

エイズ

2011年10月5日15時51分発行